

第一回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 北村 恭康

日時 令和元年5月19日(日) 10時30分～13時30分

場所 奈良県立万葉文化館・明日香村

参加者 石田通大(左京小)、中澤哲也(平群北)、中澤かな(六条小)、河野晋也(奈良教育大附属小)
吉原 啓(万葉文化館)、北村恭康(奈良教育大) 山之内健人・坂元亜衣(奈良教育大学部生)

内容

(1) 第一回目となることから、初めに万葉文化館研究員の吉原 啓氏より、万葉文化館の展示内容について説明をしていただく。

○ 歌垣

- ・市(市場)やお祭り等、人が多く集まる場所で行われた。
- ・老若男女が歌を掛け合う祭りで、時には、歌で恋人や結婚相手を探すこともあった。

紫は 灰指すものそ ^{つばいち}海石榴市の ^{ちまた}八十の衢に 逢える児や誰

○ 市

- ・衢といわれる道が交差した場所や大きな植物が目印に開かれたと思われる。
- ・多くは、物々交換で取引が行われた。貨幣も使用されていた。

○ 古代の文房具

- ・紙もあったが貴重品なので、木簡も重要であった。上手に削り、内容がはっきりわかるものもあれば、細かく削り取ったものもある。「天皇」と書かれた最古の木簡も見つかっている。

○ 飛鳥池工房遺跡

- ・富本銭 最古の鑄造銭 (和同開珎が発見された地層より古い地層から発見された。)

館内より、炉跡などを見ることができる。

- ・宝玉 ガラス玉には、つなげられるように穴をあけるために鉄の細い棒がさしてある。

○ 令和について

「万葉集」の巻5・梅花歌32首序文から引用されている。

大宰府で大伴旅人(大宰府の長官)の宅に集まって宴会を開いた。・・・

初春令月、気淑風和。梅披鏡前之粉 蘭薫珮後之香。

大伴家持は旅人長男である。



(2) 明日香村フィールドワーク

齊明天皇(皇極天皇)と関わりある遺跡を中心に回る。

亀形石造物 ⇒ 酒舟石遺跡 ⇒ 飛鳥宮跡 ⇒ 飛鳥寺 ⇒ 石舞台古墳 ⇒
島の宮跡 ⇒ (学生 キトラ古墳)